

頑張っています 同窓生 VOI. 3

初代 つけ麺 仁麺魚 店主 篠田 仁志 (平5年卒)

北方町のサンブリッジ北方の南東角に、篠田仁志氏が店主を務める「初代 つけめん 仁麺魚」がある。

篠田氏は、京町小学校、伊奈波中学校を経て平成5年に母校普通科を卒業した。その後は名古屋学院大学に進み、ユニー(株)に就職した。アピタ北方店、ユニー長良店、アピタ名張店に合計5年間勤務した後、夢の1つであった俳優を目指して親に勘当されながら28歳で上京することになった。3月3日に上京し、4月にはオーディションに合格し、6月には劇団のオーディションにも合格した。俳優業を行った11年間のうち、5年間は下積み生活、後半6年間は仕事も軌道に乗り、テレビ、モデル、舞台と、様々な分野で数日本の仕事を経験した。そんなある日、父親の病気をきっかけに、岐阜に戻ってもう1つの夢であったラーメン屋を開くべく、東京のラーメン屋3店舗で働くとともにラーメン学校に通い、平成25(2013)年7月31日に現在の店をオープンした。

高校時代の思い出は、「挙げればきりが無いが、一番はラグビー部のこと。先輩や後輩も含めた仲間がかけがえない存在で、つながりは今でもある。ラグビーは人生の一部」と語る。また、「体育祭で東団の応援団長を務め、多くある岐阜市内中学校出身者から構成されてまとまりがなかった東団をまとめ上げて、初優勝を勝ち取ったことも懐かしい」と、「マラソン大会では、20位以内に入ったら表彰されたため、部活動の仲間と競い合った」とも語る。高校で学んだことは、「青春時代に同じ目標に向かって一緒に進んでいく仲間に出会えた、人間関係の深さであり、彼らは一生の仲間である」と、「人財」に恵まれた高校生活を振り返る。

今後は、仁麺魚の2代目、3代目をベジそばなどのつけ麺以外で店を持つことや、籍を置いたままの劇団から声がかかったら俳優業を行い、岐阜と東京を行き来できたらと語る。

また、生活する上で大切にしていることとして「地域貢献」がある。自身の店舗だけでなく、他の店の宣伝をフェイスブックやブログで行っている。「自分が幸せになるだけでなく、他人も幸せになる」こと、「ギブ・アンド・ラブ」という素晴らしいスローガンを語った。



初代 つけ麺 仁麺魚

〒501-0438

岐阜県本巣郡北方町平成 5-16

TEL 058-374-5119

URL <http://www.ccn.aitai.ne.jp/~jinmengyo/>

【平成29年3月31日 取材 インタビューー 西尾 侑一(平16年卒)】

『同窓会だより』第45号掲載記事)